

世帯類型別の住宅の状況

(家族構成と住宅の種別について加えたもの)

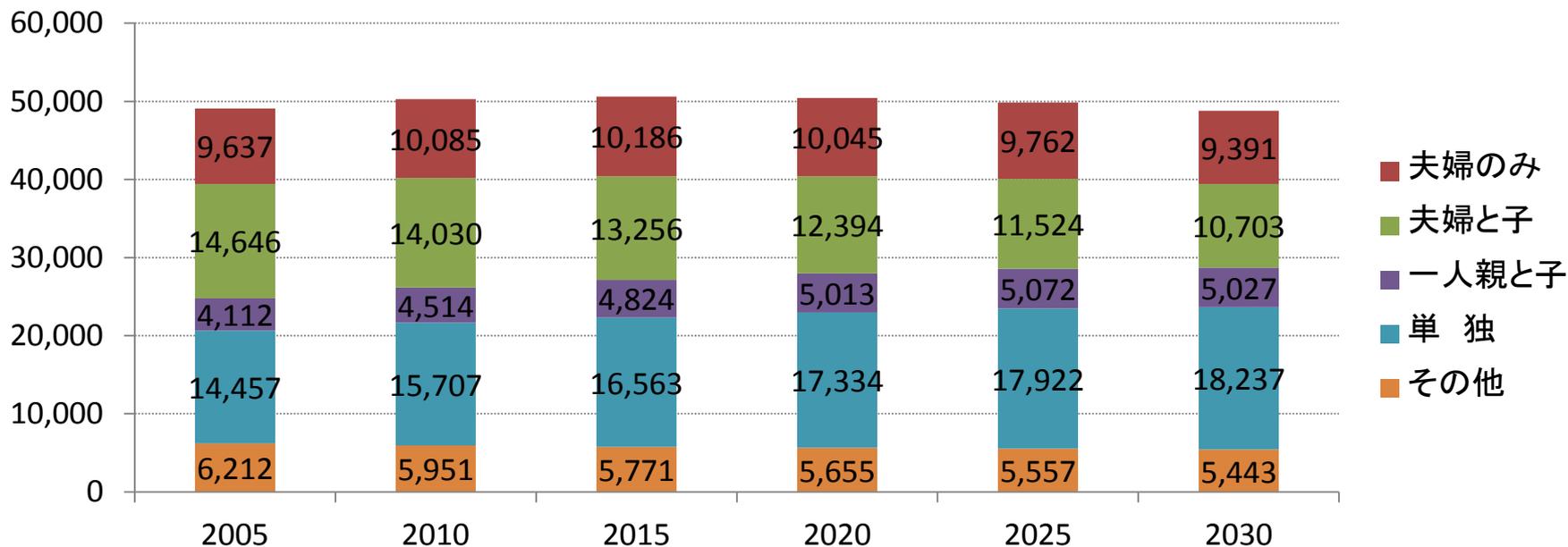
世帯数の推移（将来予測）

ポイント

- 我が国の世帯数は2015年をピークに減少に転じる。
- 一方で単身世帯数だけは増加を続ける。

（単位：千世帯）

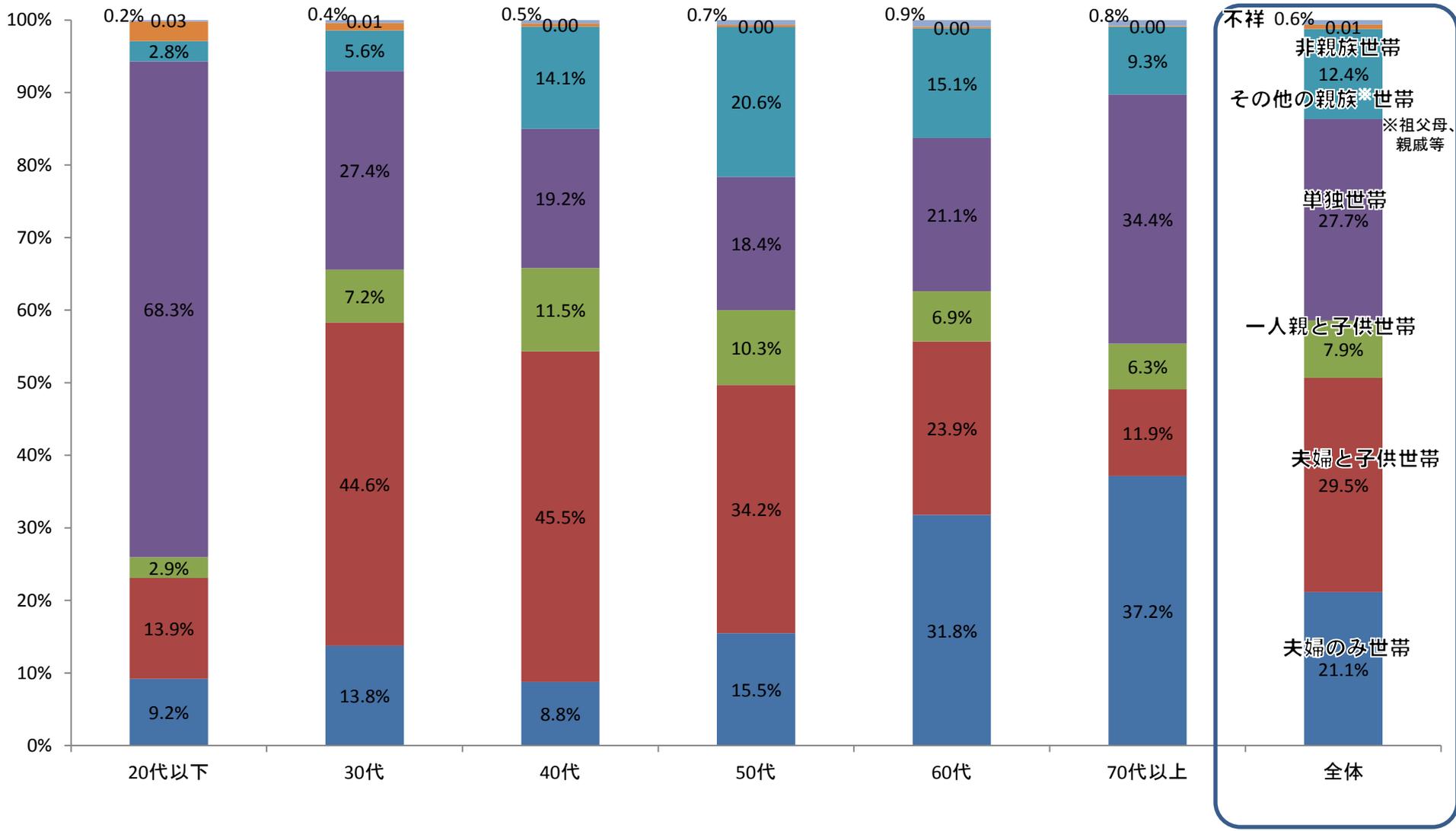
年次	夫婦のみ	夫婦と子	一人親と子	単 独	その他	合計
2005	9,637	14,646	4,112	14,457	6,212	49,064
2010	10,085	14,030	4,514	15,707	5,951	50,287
2015	10,186	13,256	4,824	16,563	5,771	50,600
2020	10,045	12,394	5,013	17,334	5,655	50,441
2025	9,762	11,524	5,072	17,922	5,557	49,837
2030	9,391	10,703	5,027	18,237	5,443	48,801



〔追加分〕

家計を主に支える者の年齢による分類（平成20年度）

家計を主に支える者の年齢別に、家族の類型を分析したもの。20代以下と70代以上で単独世帯が多くなる。また、夫婦と子供世帯は全世代に渡り半数以下となっている。

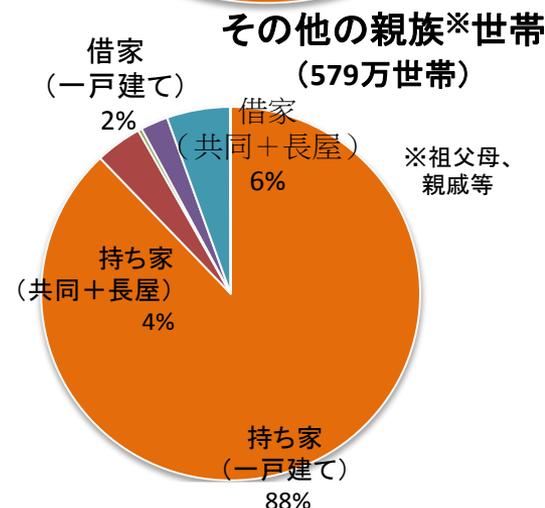
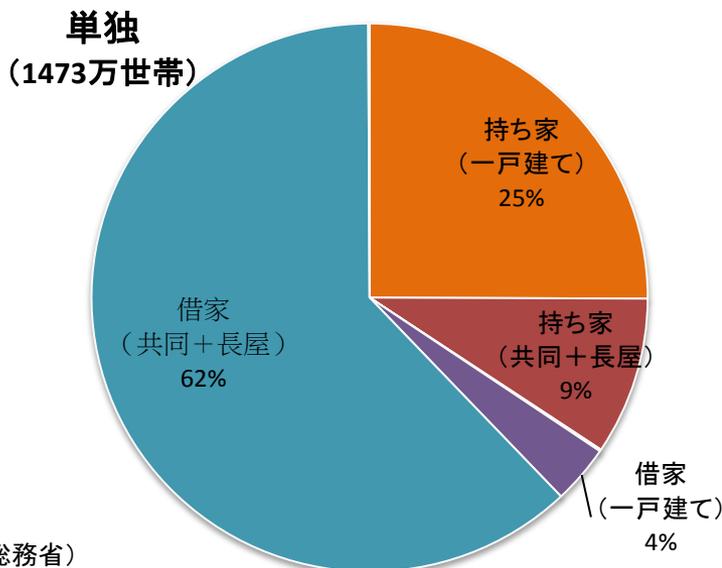
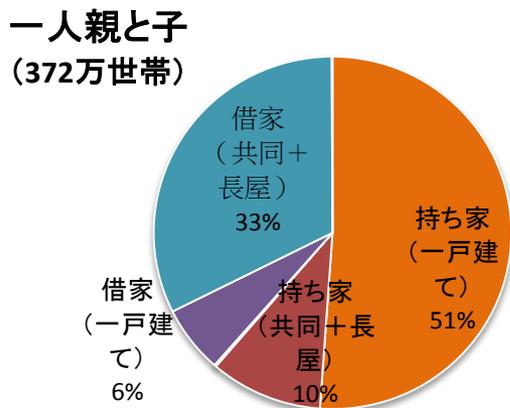
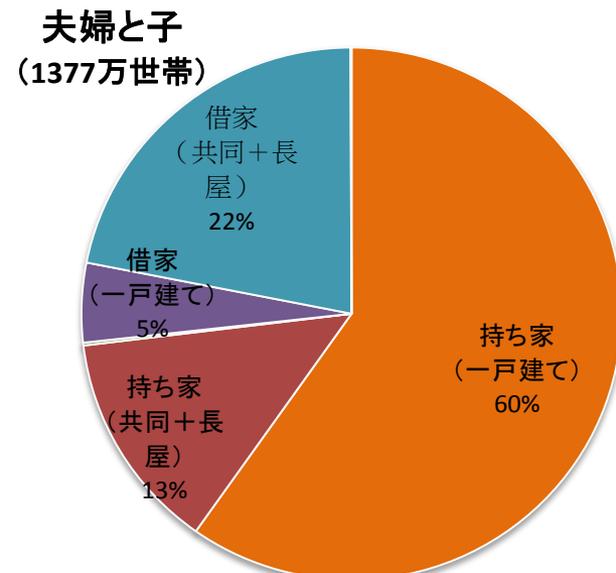
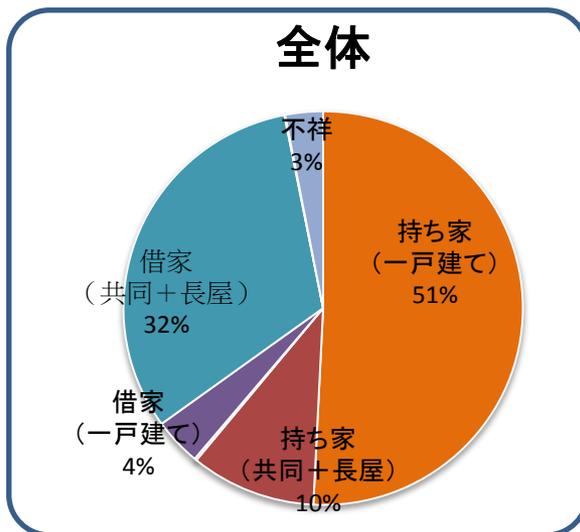
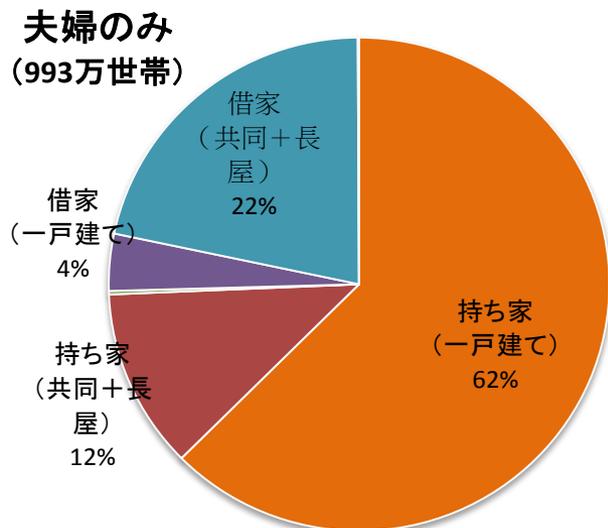


(出典)平成20年住宅・土地統計調査(総務省) ※全体の数値に「年齢不祥」は含まない。

住宅の所有関係・建て方による分類（平成20年度）

家族類型別に住宅の所有関係（持ち家／借家）と建て方（戸建て／共同）の別を分析したもの。夫婦のみや夫婦と子世帯では持ち家（一戸建て）が多いが、単身世帯では借家（共同）が過半を占める。

※各家族類型の数値に「不祥」は含まない。（全体には含んでいる。）



(出典) 平成20年住宅・土地統計調査(総務省)

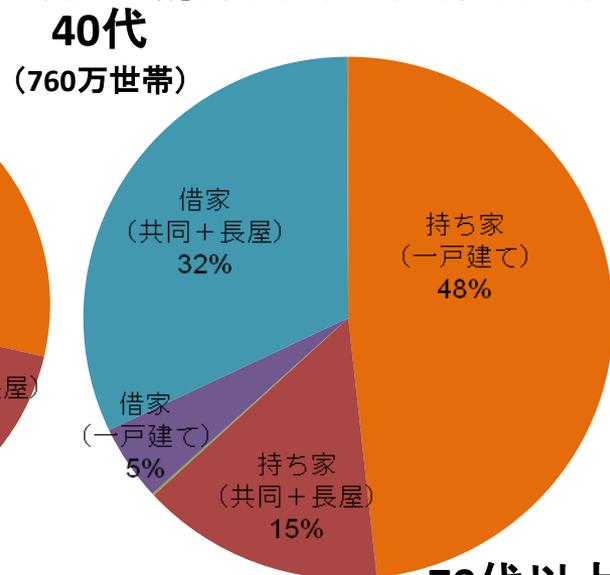
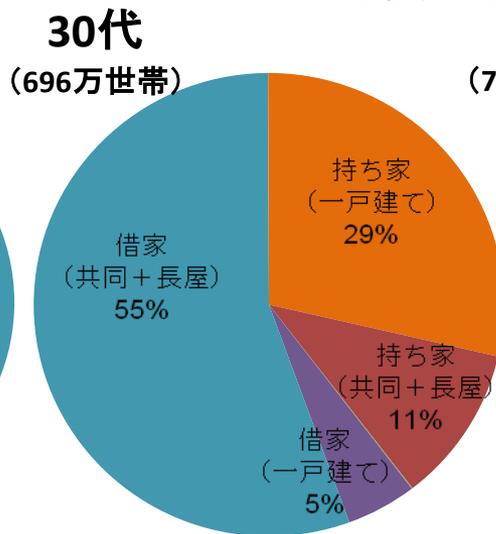
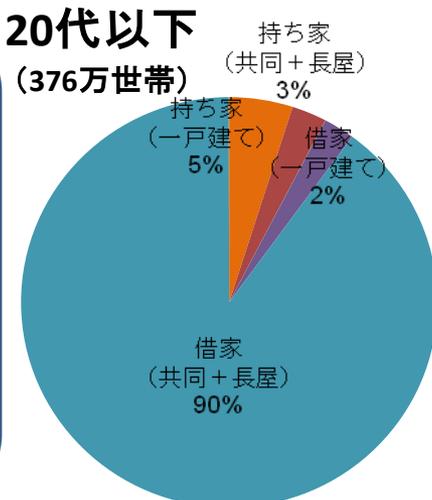
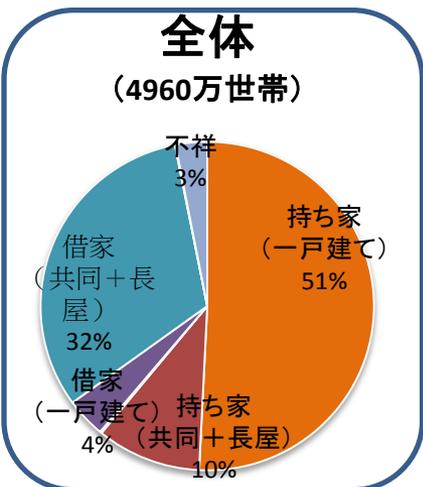
(注)この他に、非親族世帯(28万世帯がある) 4

家計を主に支える者の年齢別の住宅類型

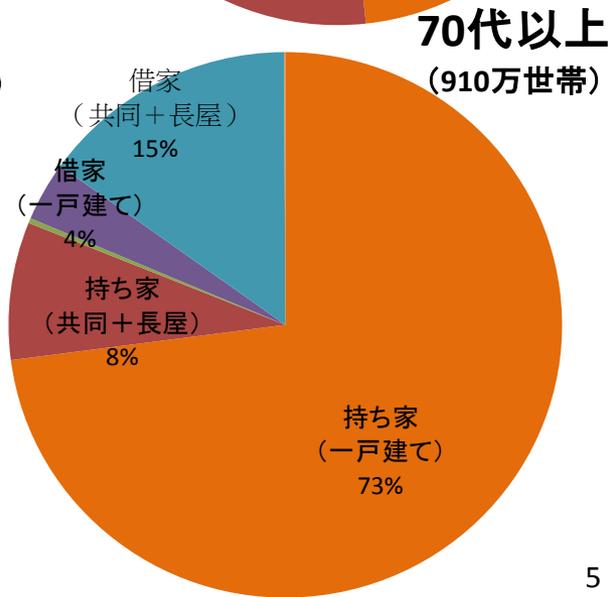
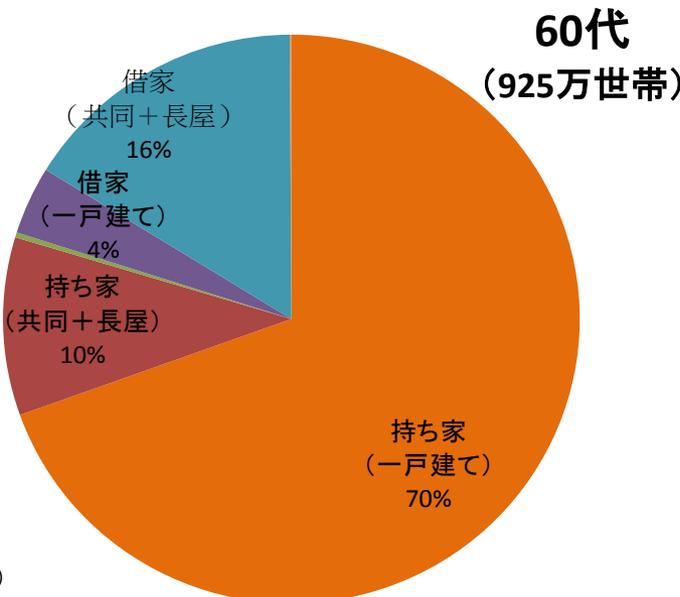
[追加分]

家計を主に支える者(世帯主)の年齢別に住宅類型をみたもの。年齢が上がるにつれて、持ち家割合が高くなる。

※各年代の数値に「不祥」は含まない。(平均には含んでいる。)



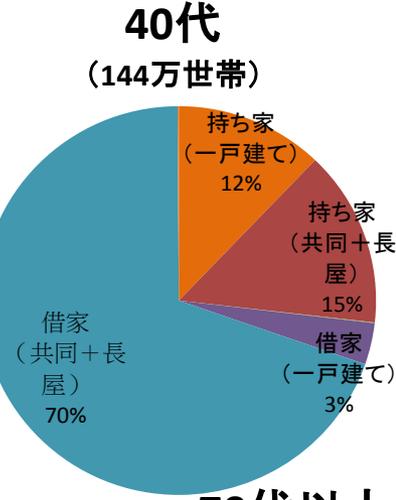
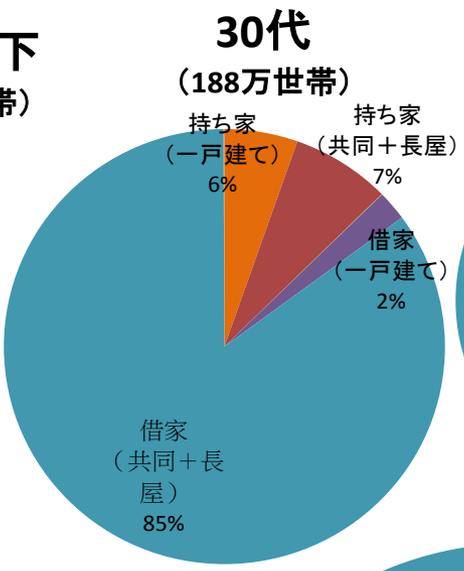
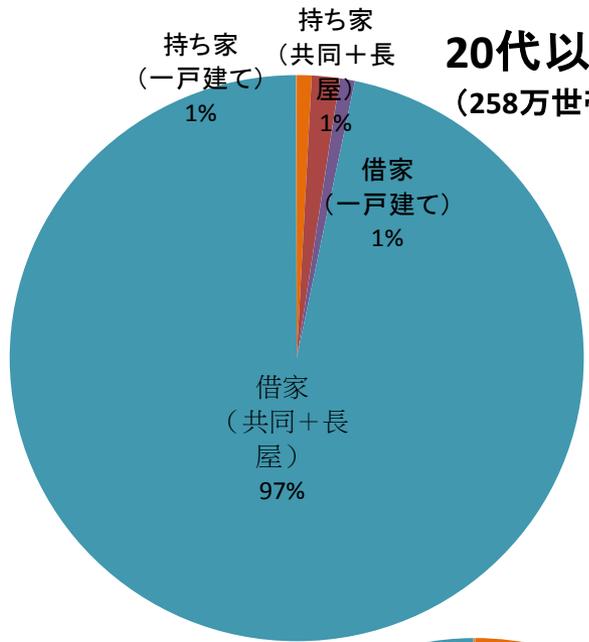
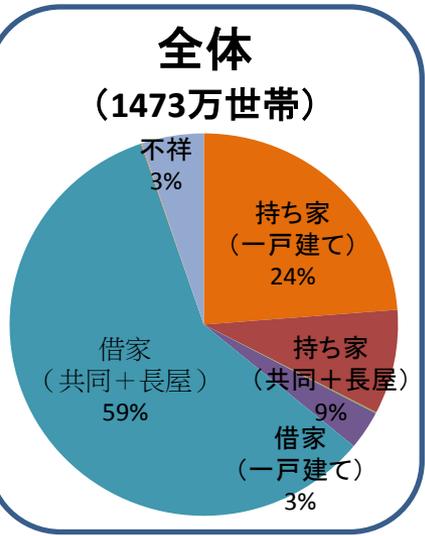
※各年代の数値は「不祥」は含まない。(全体には含んでいる。)



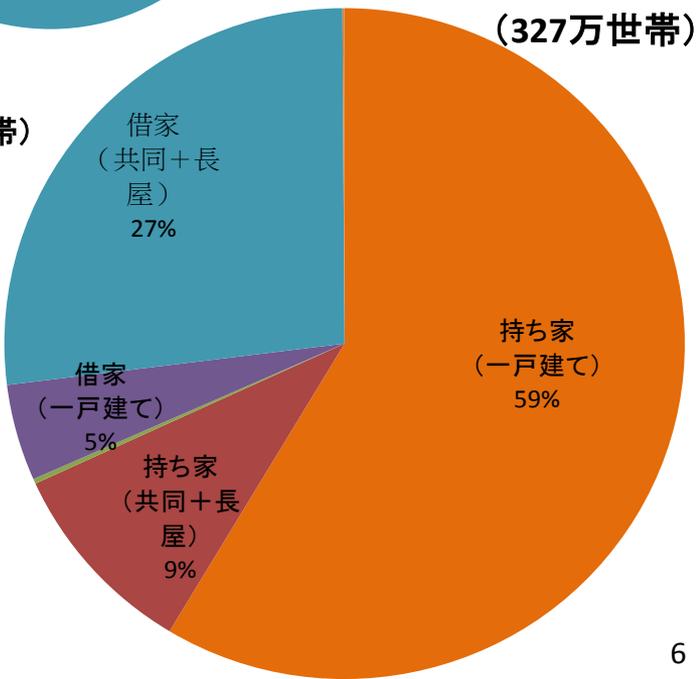
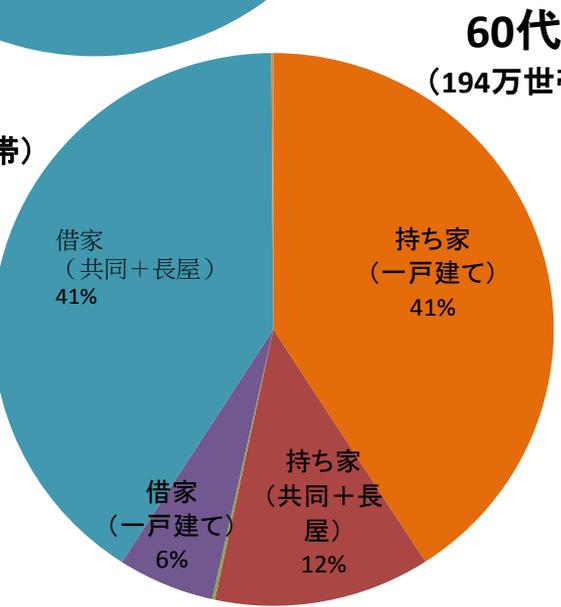
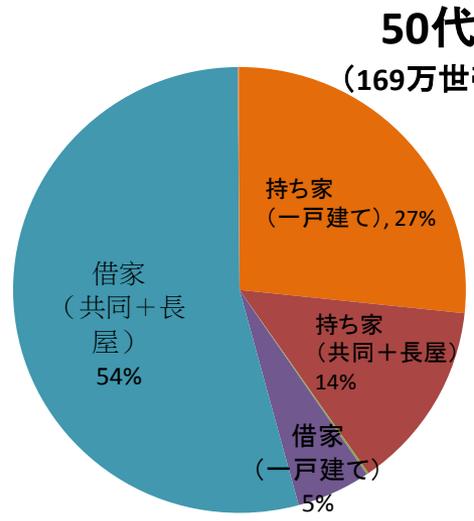
(出典)平成20年住宅・土地統計調査(総務省)

単独世帯の住宅類型

単独世帯のみで年齢別に住宅の所有関係(持ち家/借家)と建て方(戸建て/共同)の別を分析したもの。50代以下では借家が過半を占めるが、70代以上では持ち家が60%以上を占める。



※各年代の数値は「不祥」は含まない。(全体には含んでいる。)



(出典)平成20年住宅・土地統計調査(総務省)